

## 「韓国船遭難救護の碑」

## 福井県小浜市

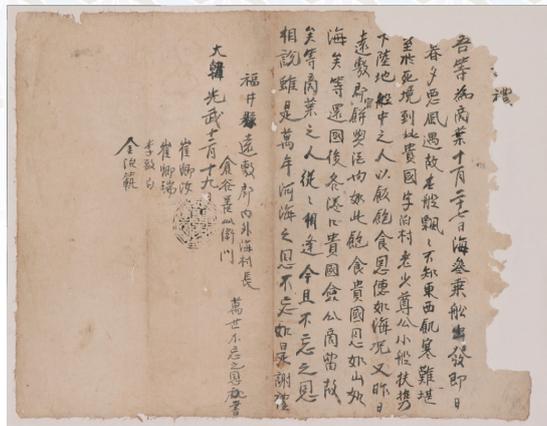
韓国船遭難救護の碑がある泊地区は、内外海(うちとみ)半島にある泊岳の裾に位置する、戸数23、人口約100人の小さな漁村である。泊の地名は、彦火々出見尊(ヒコホデミノミコト=海幸彦)と豊玉姫命(トヨタマヒメノミコト)という男女の神様が蘇洞門の千畳敷の岩場から泊岳を越えてきて、村に泊ったという伝承に由来し、地区の若狭彦姫神社には二神が奉られている。

ウラジオストクを出航して大韓帝国咸鏡北道明川に帰途の船サインパンゼ号が、暴風で遭難。極寒と飢え、半月余りの漂流の末、1900年1月12日に泊沖に漂着。

泊区民は総出で救護、誠心誠意保護をし、93名の朝鮮人全員が無事に本国へ帰還した。1月19日、浜で別れるとき、朝鮮人は涙を流し、村の衆も袖を絞るほどに泣き親子兄弟の様な別れをした。

この記録は、「泊の歴史を知る会」という地区住民の活動の中で再発見された。同会は海や山に祈る暮らしが変化し、地域のつながりが希薄になってきたことに危機感をもち、ふるさとを記録・継承して、地域を再生していこうと平成8年に結成された。

土蔵から発見した当時の礼状や文書をもとに、「韓国船遭難救護の記録」・絵本「風の吹いてきた村」(日韓併訳)を出版。2000年に韓国船遭難救護百周年記念事業を行い、歴史の現場に記念碑を建立



お礼状

した。

同会では、歴史や伝統行事、区民の交流が住民の心をつなぐと考え、自主講座、研修視察、古老と語る会、かわらばん、村のカレンダー発行などの活動も続けている。韓国をはじめ国内外から記念碑を訪問する視察団体も多く、国際交流の輪が広がっている。

こうした活動が評価され、(財)あしたの日本を創る協会主催の、地域の特徴を活かした個性豊かで、活力のある地域社会づくり活動を表彰する「平成18年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」の振興奨励賞(まち・くらしづくり活動部門)を受賞している。



絵本「風の吹いてきた村」

みどころ



- 蘇洞門(そとも)：花崗岩が波に打ち砕かれ、方状節理にそって海蝕してできた奇岩・洞窟・断崖の日本海側有数の景勝地。若狭フィッシャーマンズ・ワーフから遊覧船が毎日運航している。若狭フィッシャーマンズ・ワーフ ☎0770-52-3111